

新医師臨床研修制度がはじまりました

今年4月から新卒医師を対象にした新しい臨床研修制度がはじまりました。医学部を卒業し医師国家試験に合格したのち、臨床医になるためには2年間の初期研修が義務化されたのです。当病院でも全国の様々な医学部を卒業した8人の新研修医が働いています。では、新しい臨床研修制度とはどのようなものなのでしょうか。

今日の医療は日々複雑化し専門分化してきました。専門性に富む狭い部分を扱う医師がより優れているといった偏った考えが定着し、日常的な病気でも専門以外の病気は診療できない医師が増えてしまったのです。このような現状を改め、患者さんを全人的に診療できるように、2年間で7科（内科、外科、救急部門、小児科、産婦人科、精神科、地域保健・医療）を研修することが義務づけられました。さらに新制度では研修医の態度も評価し、患者さんとともに治療に取り組むことのできる医師育成を目指しています。

研修医が診察することに不安を感じる方も多いと思われます。この点でも新制度では、研修医は指導医の監督の下で診療・治療を行い、安全と質が確

保されることを義務づけています。一方、指導医も研修医を教えるためには自らも勉強しなければなりませんから、病院全体の診療レベルが向上することになると考えられます。また、研修医を受け入れられる臨床研修病院の指定を受けるためには、様々な条件を満たしていなければなりません。したがって、当病院のような臨床研修病院は「一定の質を確保した病院」ととらえることもできます。

医療は「世代を越えて伝えていかなければならない技術」といった側面を持っています。また、真に社会に貢献できる医師を育てるのはその時代の責務ともいえるでしょう。新しい臨床研修制度にご理解、ご協力をお願いいたします。

内科診療部長 小林裕幸

お知らせ



耳鼻咽喉科で行うめまいの検査



めまいには脳血管障害・脳循環障害に伴うもの、自律神経異常に伴うもの、疲労や全身的な問題によるものや内耳の異常によるものなどがあります。耳鼻咽喉科には様々な原因のめまい症状の方が受診されるので、それらを鑑別する必要があり、いくつかの検査を行うことになります。

最もメインになるのが眼振という眼球の運動を観察することであり、これには注視眼振検査と、フレンツェル眼鏡などをつけて行う非注視眼振検査があります。後者には頭の向きを動かして行う頭位・頭位変換眼振検査などがあり、良性発作性頭位めまい症では特徴的な眼振所見がみられることが多いです。

温度眼振検査は冷水や温水を外耳道に注入することで眼振を誘発し、外側半規管の機能を評価するもので、左右別々に評価できる点が有用です。

内耳の異常によるめまいの中にはメニエール病などのように聴覚異常を伴うものがありますので、聴力の検査も重要です。

シェロングテストは横になった状態と起立した状態での血圧・脈拍数を比較するもので、起立性調節障害、起立性低血圧などの自律神経機能異常に起因する血圧異常によるめまいが疑われる際のスクリーニングに用いられます。

その他にも眼球の動きを記録する電気眼振計（ENG）検査などがあり、耳鼻咽喉科では必要に応じて、これらの検査とMRI等の画像検査を用いてめまいの診察をすすめていくことになります。

耳鼻咽喉科主任医長 宮下元明

「ME室」って何をする所？

当院は基本方針の一つに、「地域中核病院として、高度な医療の充実に努めます」と謳っています。その方針に沿うべく、我々臨床工学技士（ME-Medical Engineering 医用工学）は日々努めています。高度な医療を行うためには、さまざまな医療機器が必要であり、それらの操作および保守点検を行っています。例えば病棟で使われる人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプなどは、ME室にて中央管理化し、安全に使用できるように点検を行い、病棟に貸し出しています。また手術室でも麻酔器、電気メスなど多くの医療機器が使われており、すぐに対応しなければならぬトラブル処理も仕事の一つです。その他心臓外科手術での人工心臓装置、透析室での人工透析装置などは、自然の臓器とは似ても似つかない大きな装置をそばに置く必要があります。また、これらの装置は生命を維持する重要な機器なのでその取り扱いや安全管理には十分な注意が必要です。

このようにMEは病院内の医療機器が常に安全に使用できるよう努め、安心して治療が受けられるよう援助しています。



臨床工学技士一同

ストーマ外来しています

ストーマとは、ギリシャ語で「口」を意味しており、おなかに新たに作られた便や尿の排泄口のことを言います。この排泄口は、腸や尿管をおなかの外に引き出して作られます。皆さんの顔や身体がそれぞれ違うように、ストーマの大きさや形も人によって様々です。

毎年当病院では、二十名程度の患者さんがストーマを造設されています。ストーマを造設された患者さん、及びその家族のストーマ管理の手助けとして、当院では二年前からストーマ外来を開設しております。現在毎週水曜日の午後、外科外来において年間四十名余りの患者さんのケアを行っています。専門的な知識、技術を身に付けた看護師が対応しており、手術前から入院中、退院後と継続的なケアが受けられるようになっていきます。ストーマ周囲のトラブル、パウチ選び、日常生活で抱えている不安を少しでも解消し、快適な生活を送れるよう援助しています。ストーマで悩んでいる方は、気軽に相談に来て下さい。

7 A 病棟看護員
外科外来看護員

今日の標語

「ナースコール
鳴らない職場を
目指しています」



※ナースコールは患者さんが看護師を呼ぶ時のものです。ナースコールを鳴らさなくても看護師が常にベッドサイドにいるような職場を目指しています。

看護部リスクマネジメント委員会

編集室より

早いもので、2004年も半年過ぎてしまいました。梅雨に入り不安定な日が続きますが皆さん健康には充分気をつけて下さい。

この広報誌「ふれあい」も皆様のご協力により、今回で第11号の発刊となりました。

今年は、アテネオリンピックで日本人の活躍がおおいに期待されておりますが、この「ふれあい」も身近な情報を提供し、皆様の期待に添えるよう努力してまいりますので今後もよろしくお願い致します。

H. S.